

人の道教去月論

— 通常教去月の本質をなすもの

庄司和晃

一

通常教去月とは「よきにはからえし」の教去月です

(1) なんとか、うまくやっていけばいいんです。

おかしなと思つたら退却して元へ戻す。悪いと思つたら、やうきとやり。義理だてすることなく、やうにいけばいいんです。マナーがいちばん駄目です。怖いです。

(2) 人間の尺度をきつめて、うまくいこと運命としていく世界。

(3) いいものか。できるできないか。こちらを大きくなら—とつらいつことをしてやうにいく教育の世界。

(4) なんが序列をつくつては、ひききし、またて、かゝらせていく教育。

(5) 希望・理想・夢を待たせておいたまじ教去月です。

(6) 一面をちやうど表すまじと。なうにこくになります。

(2) 他の面ぞ、人の道にない村するものは、つぎが考へられれます。

一つは、動植物の道・山川岩石の道・人間以外の地球の道・天界の道とが。
二つは、自國の道・軍國の道・國々の道・イデオロギーの道とが。

(3) としうぞ、世の中の人々は、人の道とをいふと発見して、なんとかこの世をうまう渡らうとしてきました。今もまうてます。

(4) 人の道は、時代によつて、社会によつて、主義や主張によつて変わる宿命を持っています。中世の人の道、近代の道、戦時中の道、戦後の道、なんの道とでもありません。世間は常態です。堅固なものなんてありません。世の中はすべての子の危にありまうてます。それです。人の道の発見は身をいれまうて、相対的なるものとしてもある村してきて、それです。千差万別のがたが、それの量と質に依りまうてきたわけです。

(5) こんな道をみんなて歩いていく。平和の道とが、戦争の道とが、まうて固定的なものごはありません。

(6) 約束ごとの世界ご歩いてゆく道です。とにかく、変化し舞ひまうていくから、しがみつき過ぎないまうた。

(7) チョキと変わる道もあれば、意外に変わらない道もあつきます。後者、万金ごはなにかかと。

(8) わりあいた恒常的な道(まうて)の例は、五戒といわれまうて、まうて、コロスナ、ヌムナ、ミカラナコトスルナ、サンツアナ、サケムナ、の五つです。在家の信者のまうて入るものと、戒でいます。しかし、これとて、時代や社会によつて、その受けとめや使ひ方が変わるまうて、まうて、各律内ごなりまうて、まうてのまうて。

(9) 人の道とは各人勝手な道です。どんなう道を行まうていふごです。いふごがまうて。

三

ヨキニハカラツテやうにいけはよいのです。さういふのは不幸な道だから、さしてめんなのためにならぬからだと、をいふしつづきのが、さういふの世間教育です。ですから、さういふ「リマ」のことやうにいふしつづきのをいふのです。さういふたてをいふゆゑに、さういふだけ「死」して、あとは勝手なさいといふのであります。

方法としては規範的認識の結晶を解明する線路での出立です

- (1) 規範的認識論を踏まえてついでに進めたいです。
- (2) 成句的な言語表現を中心とする所存です。
- (3) 成句へはベル横線が、かまぐけの精神。おいかま。等々。人の道の「発見」として扱います。すなわち、人々の発見能力の成果として発見。さういふ特色が深くかかっています。へんとは向かい肝心な点が見えてくるかも知れません。
- (4) 大衆・アエ人・知識人の成句化に着目します。
- (5) 表裏道を多く人の道。上表裏道を多く人の道。達人の道。平凡人の道。死なぬ人の道。さういふ観点も導入してみたいと思ひます。
- (6) 計画——たとの。人の道たる。及した諸文を早の分析。さういふ規範的認識づくりとその意味。自然発生の規範。表裏的の規範。えらいさのつづいた規範。國家のつづいた規範。団体のつづいた規範。家族のつづいた規範。規範論の存在の形成。おみくじの示す人の道。カレンターの示す人の道。ポスターや広告の示す人の道。宗教団体の示す道。さういふ人の道教育の理論化。等々。
- (7) まずは、これまでたのみなナマ資料（次教目のことと項自解）の、分析・解説・意味発見の仕事からスタートして行くことにしよう。

規範的認識の結晶
—「人の道」研究—
佐司和晃
1970.11.15 27

目次

1	銭形平次の主題歌	NO. 1
2	人の道	2
3	心の持ち方	2
4	親父の一言	3
5	日常の正心	3
6	海軍の五省	3
7	家康の遺訓	3
8	仏教の五戒	4
9	18世紀聖書の十戒	4
10	山びこ学校の六ヶ条	4
11	親父の一言 (図の原形)	5
12	シベール標榜	6
13	元々ゴイフポイント	6

14	今日の実行「愛護心勝3カ条	NO. 6
15	上田蕉の「ない後輩のための手がかり」	7
16	毛沢東の三大規律・八項注意	8
17	軍人勸諭	8
18	親父の一言の語のなすわん親の「健康の場」	9
19	禅宗の食事の際の「五戒の場」	10
20	「規範的認識の結晶」—規範的認識の道	9
21	名言の示す学「学—道に道は道に道に道」	12
21	佐司和晃が佐司和晃、そして学問論	13
21	学者たは、威産の整理や分類に	14
22	学問、道や教養への	14
23	学問もまた	13
24	和作、魯くのが職業だぞら	14
25	和作の一言は空しの百首のからなり	14
26	和作とくは、経験者	13
27	和作の一言は、和作の一言	15
28	学問に学問の大道は	15
29	知的訓練材の結晶の向題は	15
30	学問の基礎は	16
31	信念と知識は	16
32	和作の一言の「和作の一言」—和作の一言	17
33	親父の一言「長寿の心得」	18

34	規範的認識の結晶の結晶 (図の結晶)	NO. 17
35	武田信玄の結晶	20
36	和作の一言は	20
37	「土佐歴史館」の結晶	21
38	和作の一言「和作の一言」の結晶	22
39	和作の一言「和作の一言」の結晶	23
40	和作の一言「和作の一言」の結晶	24
41	和作の一言「和作の一言」の結晶	25
42	和作の一言「和作の一言」の結晶	26
43	和作の一言「和作の一言」の結晶	27
44	和作の一言「和作の一言」の結晶	27
45	和作の一言「和作の一言」の結晶	28
46	和作の一言「和作の一言」の結晶	28
47	和作の一言「和作の一言」の結晶	29
48	和作の一言「和作の一言」の結晶	29
49	和作の一言「和作の一言」の結晶	30
50	和作の一言「和作の一言」の結晶	31
51	和作の一言「和作の一言」の結晶	32
52	和作の一言「和作の一言」の結晶	33
53	和作の一言「和作の一言」の結晶	34
54	和作の一言「和作の一言」の結晶	35
55	和作の一言「和作の一言」の結晶	36

56	和作	NO. 36
57	和作の一言「和作の一言」の結晶	37
58	和作の一言「和作の一言」の結晶	38
59	和作の一言「和作の一言」の結晶	39
60	和作の一言「和作の一言」の結晶	39
61	和作の一言「和作の一言」の結晶	40
62	和作の一言「和作の一言」の結晶	41
63	和作の一言「和作の一言」の結晶	42
64	和作の一言「和作の一言」の結晶	44
65	和作の一言「和作の一言」の結晶	44
66	和作の一言「和作の一言」の結晶	45
67	和作の一言「和作の一言」の結晶	45
68	和作の一言「和作の一言」の結晶	46
69	和作の一言「和作の一言」の結晶	46
70	和作の一言「和作の一言」の結晶	46
71	和作の一言「和作の一言」の結晶	48

(以下、略)

1997. 3. 7
全面研究会にて。